

農業と自然を体験！ 砥山農業小学校通信

砥山農業小学校 15年の歴史に幕

今年最後の農業小学校は最高気温 11.6℃、湿度 34%と低温気味ですが、まずまずの天気恵まれ最後の農作業を楽しみました。

農業小学校は、これまで15年間で、226家族 696人もの参加者をお迎えし、地域に大きな成果をもたらしました。しかし、残念なことですが今回で15年の歴史に幕を降り閉校することになりました。

15年の歳月を続けられたのは、主催農家と共に支えてくれたボランティアのお陰です。しかし、スタッフの高齢化や環境の変化などにより幕を降ろすことが適当であると判断されました。



【ハロウィンカボチャ 最後の大事な作業を楽しみました】

リンゴの収穫 10:20~



今年も収穫するのはワセフジ(昂林・こうりん)です。少し早めに収穫できるのでこの名前がつけられました。果肉は緻密で少し蜜が入る事が多く、果汁もたっぷりです。全体に甘味と酸味のバランスがとれたおいしいリンゴです。

瀬戸園主から、木や枝を痛めないように収穫する方法を教してもらい、一斉に収穫にとりかかりました。ほとんどの人が初めての経験で、脚立や踏み台を使って、丸々と太った赤いリンゴを2本の木から丁寧に摘み取りました。

このリンゴはみんなで持ち帰ることになっています。

交流会準備 11:00~



料理はブタ汁がメインです。材料のジャガイモ、ダイコン、ニンジン、ゴボウ、豚肉などを全員で分担して準備しました。小さいお友だちは包丁などの刃物の取り扱いが苦手ですが、がんばりました。これも農業小学校での経験です。スタッフが大鍋で煮込んでくれている間に野菜の収穫に向かいました。

トウモロコシ・野菜収穫 11:30~



種や苗植えのタイミングが合わず、農園が用意してくれた畑での収穫となりました。

しっかりと実が入り、甘みの強いトウモロコシをそれぞれが収穫。直接もぎ取るのは初めての経験となる人が多かったです。試食が楽しみ。

次いでサツマイモの収穫。北海道では難しいとされている作物ですが、丸々と太ったものも交じっていて、手を使って掘り起こし、見つかるたびに歓声があがりました。

ニンジンには不思議な形のものがたくさんありました。【写真右】人参の「参」という字はたくさん入り混じるという意味があり、かつては「蔘」という漢字を用いて、ヒゲのような物がたくさん混じっているという意味を表していました。つまり「人参」とはヒゲの付いた人間に似た形をした物だという事を表しているそうです。(語源由来辞典から)

ゴボウは古く薬草として中国から伝来したキク科の多年草。大阪府では「ごんぼ」と呼ぶ。今回は少量でしたが短いけれど太ったゴボウを収穫しました。

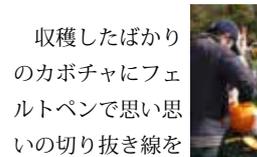


交流会 12:20~



野菜の収穫をしている間にスタッフはトウモロコシを茹で、豚汁を完成させてくれました。空腹というこもありトウモロコシは甘く、熱々の豚汁も何とも言えず美味しく感じました。何回もおかわりするお友達もいました。これまでの6回の農業小学校の働きをかみ締めながら、みんなで大いにかきました。

ハロウィンカボチャ工作 13:30~



収穫したばかりのカボチャにフェルトペンで思い思いの切り抜き線を描きました。頭の部分を切り取って中のワタを取り除き、描いた線に沿って切り抜いて完成です。小さなお友だちも懸命にがんばりました。自宅に持ち帰って家族で楽しめます。

卒業式 14:30~



桜井校長先生から一人一人に卒業証書が手渡されました。皆さんのあいさつは、とにかく「ありがとう」という感謝の言葉でした。6か月前から比べると格段に生長し、たくましくなっています。生長したのは農作物だけではありませんでした。

10月15日の活動



朝のミーティング



果樹園で使われている有機の堆肥



ていねいに作業



なぜか感慨深い



高いところも平気



この豊かさが笑顔に



学ぶ事がたくさんありました



とにかくやってみる



刃物は少しこわい



これなら家事もお手伝いできそう



母は強い



みんな小さい時がありました



なぜか笑顔に



皮むきも初めて



総出で皮むき



ダイコンの収穫



土の中でこんなに大きく



サツマイモの収穫

10月15日の活動



自慢の収穫



ハロウィンカボチャ



スタッフがトウモロコシをゆでました



とてもおいしかったです



黙々と味わいました



この環境が美味しくしてくれます



家族で楽しみました



力を合わせて



ハロウィンカボチャ工作 初めての経験



3年連続の参加です



黙々と作業しました



農業小学校 たくさん楽しみました



いつも一生懸命



何もかも初めての良い経験でした



兄妹一緒に生長しました



この園地で思いっきり活動出来ました 15年間ありがとう

発行：砥山農業クラブ

(代表 瀬戸修一 校長 桜井学)

住所：〒061-2275

札幌市南区砥山126番地

八剣山果樹園内

電話・FAX：011-596-2280

E-mail: info-h@hakkenzan.jp

http://www.hakkenzan.com/nosyo/